

登録コード:MH143200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	在宅看護学概論【20M～24M】 Principles of Home Care Nursung			
担当教員	小村 晃子 五十嵐 久人			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 後期 火曜・4時限			
単位数、講義室	2単位	多目的講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		病気や障害を持ちながら地域で生活する人々と家族の暮らしを支援する看護の基礎を理解できる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		日常生活支援や医療的ケアが必要なケースなど、様々な対象者のニーズを理解できる。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		地域包括ケアシステムの理解、療養の場の移行に伴う看護と多職種・多機関連携の重要性を理解できる。	
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。		公衆衛生学、社会学などや他の看護学領域で学修した内容と関連させながら、地域で健康や暮らしに支援が必要な方々を支えるための知識や技術が理解できる。	
	MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		看護の対象は地域で生活する人々及び家族であり、その人らしい暮らしを支える看護の基礎が理解できる。	
科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		暮らしの拠点となる地域を理解し、様々な場や健康状態にある方々の健康と暮らしを支える看護の役割を考えることができる。		
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿、防災減災			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	地域で生活する人々と家族およびその暮らしの拠点となる地域を理解し、様々な場で、様々な健康状態にある人々と家族、その人らしい暮らしを支える看護の基礎を学びます。地域包括ケアシステムの概要と関連する制度や社会資源を理解し、多職種・多機関との連携の重要性と、地域包括ケア推進に向けて求められる看護の役割について考えます。本授業は、3年次前期の地域・在宅看護方法論で実践的な技術・知識を学習するための基盤となる重要な内容です。3年次後期の地域・在宅看護学実習でも必須の内容を含みます。本授業は、担当教員の医療機関や訪問看護、行政等での看護師、保健師の実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第 1回（ 9月29日）地域・在宅看護の基盤 第 2回（10月 6日）地域・在宅看護の対象と背景 第 3回（10月13日）在宅看護の役割と倫理 第 4回（10月20日）地域で暮らす人々のニーズ/ICFの活用 第 5回（10月27日）難病と共に暮らす人の理解 第 6回（11月10日）対象としての家族の理解と支援【小テスト 】 第 7回（11月17日）暮らしを支える制度と社会資源 第 8回（11月24日）訪問看護の特徴と訪問看護ステーション 第 9回（12月 1日）療養の場への移行支援（入退院支援） 第10回（12月 8日）地域包括ケアシステムと多職種連携 第11回（12月15日）介護保険制度とサービス 第12回（12月22日）在宅看護における介護予防【小テスト 】 第13回（ 1月 5日）自立を支援するケアマネジメント 第14回（ 1月12日）在宅療養におけるリスクマネジメント・BCP 第15回（ 1月19日）諸外国の動向と今後の課題 *授業アンケート 第16回（ 1月26日）期末試験			
授業の進め方	授業はスライドと配布資料に基づいて進めていきます。 授業の終わりに次の授業の事前課題を出します。 授業時はグループになって共有・意見交換し、グループの意見を導き出し、全体で発表して共有する授業も予定しています。 1～2名のゲストスピーカーによる講義も予定しています。			
テキスト、教材、参考書	（教科書） 臺有佳他編：ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論（1） 地域療養を支えるケア メディカ出版 2025（第8版） 前期の教科書購入の際に一括購入している （参考書） 河原加代子他編：地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤（第6版） 医学書院 2022.2月			

テキスト，教材，参考書	臺有佳他編：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論（2） 在宅療養を支える技術 メディカ出版 2025（第3版） （教材） レジュメ（各授業時に配布予定）
成績評価の方法	課題レポートや小テスト、期末試験に基づいて総合的に成績を評価します。 総合的な評価の配分は、小テスト20%、レポート20%、期末試験60%（100点満点を60点に換算）の総合評価とします。 期末試験は、講義・テキストで学習した内容・行動目標の理解度を確認します。 小テストは、復習による授業到達度を確認するために授業後に行います。 課題レポートの採点基準は、課題の目的との整合性、用語の適切さ、範囲の広さや詳細さ、論理的であるか、誤字・脱字の有無、丁寧さ、期限内の提出か等を成績評価の基準に準じて総合的に判定します。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、以下の通りとします。 90 - 100点：秀、80 - 89点：優、70 - 79点：良、60 - 69点：可 なお、これらの採点基準は行動目標に関連した設問の正誤、記述解答における用語の適切さ、範囲の広さや詳細さ、論理的であるか、誤字・脱字の有無、丁寧さなどを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の回答であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分詳細な解答であれば「かなり上にある」、自身で能動的に学修した詳細な解答であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回授業に必要な事前学習課題について説明します。 【事後学習について】 授業後に内容確認のための小テストを行います。それを通して学習内容の整理と疑問等を明確にし、解消に向けて学習してください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要になり、以下のような学習時間を必要になります。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習には意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	病院中心の医療から、地域でより生活に密着して活動する医療に転換されています。暮らしの場での医療の継続、安定した暮らしを支援するために在宅看護が担う役割は益々高まっています。現場の方々をゲストスピーカーに迎えて講義をしていただく予定です。（日程は変更される可能性があります。） 質問への対応：小村晃子 akomura@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前要連絡） 研究室は保健学科中校舎3階